

# 手と手と手

## 岡山発 国際貢献

青空の下半分にどす黒い壁がそびえてい。見る見る襲いかかってくる。すべてが消えた。二〇〇四年十二月二十六日午前八時。インドネシア・アチェ州(スマトラ島)のバンタアチエは、穏やかな日曜日の朝を迎えていた。海辺に位置する州都

はインド洋沿岸など十数カ国で、死者・行方不明者二十万人以上。中でも震源に近いアチェ州は十六万人を超える最大被災地だ。

一軒だけ残して消えた村。丘に打ち上げられたまま壊れた船。コンクリートの破片に粉れ、人骨の残る海岸。国際社会は、被害各国に総額百三十億(約一兆五千億円)以上の支援を表明しているが、復興の足取りは遅く、こバンタアチエでは、とりわけ被災のつめ跡が生々しい。

呼びながら逃げて来る人々が見えた。背後に黒い壁。大きく口を開け、人や木、建物を飲み込む。波頭に刺さった木が背びれのように見えた。さながら竜だった。車と人の渦を縫って夢中で逃げた。命は助かったが、家と職場は失った。

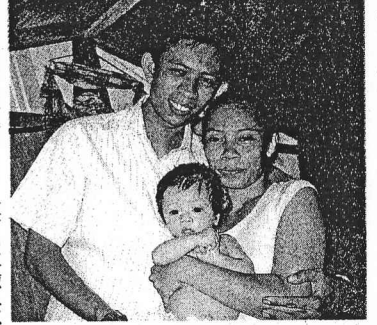
約千人が生活するアチエ州最大の避難民キャンプ・TVR1。アアはここで妻娘二人と暮らす。二日でもうんざりなのに。もう一年だ。

青やグレーのテント屋根がひしめき合う。柱はゴミの中から拾ってきた木材。部屋は不ぞろいの板張りで、台所兼六畳ほどの居間ともう一つ。風呂とトイレは共同だ。テ



スマトラ島 インドネシア

## つめ跡 最大被災地で復興支援



避難民キャンプで暮らすアブ夫妻にとつて「小春日」は、希望の光だ

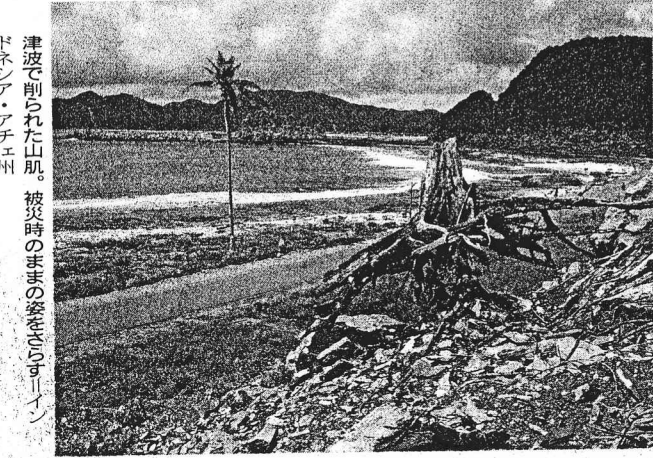
ント屋根は強風にもろく、三回は張り替えた。食糧は、毎月一人十キロの米と食油の配給がアメの米と食油(非政府組織)からあるだけ。肉や野菜の副食類は、自分で買わなければならないのに、キャンプで暮らす約七割の人が就職できない。また。

岡山市檀津に本部を置く国際医療ボランティアAMDA。この地に拠点を設定して、被害者支援を行っている日本唯一のNGOだ。

緊急人道援助で広く知られるAMDA。相互扶助の精神を基本に、日本はもろろん、アジアなど二十九支部に医師らを抱え、事に備える。AMDAのインドネシア人医療チーム(七人)がバンタアチエに入ったのは地震発生二日後の二十八日。同国に支部を持つ強みを発揮し、NGOとしては世界最速だった。それから昨年三月下旬までは、日本を含めた複数国の関係医師ら約七十人がけがの治療など、緊急的な医療支援を中心に順次活動。一段落を見たら後は、復興支援に重点を置いて保健衛生教育といったソフト面に力を入れている。AMDAの支援は緊急時の医療にとどまらず、長期的視野も持っているのだ。

### 現地スタッフ

金山夏子(左)大阪府出身が事業統括として現地に滞在。アアは昨年二月中旬から現地スタッフに加わった。金山を補



津波で削られた山肌。被災時のままの姿を写すサイン。ドネシア・アチェ州

## 第1部 われらNGO AMDA ①

災害、戦乱、貧困、環境問題、地球市民的発想で世界の事象にかかわることが求められている時代だ。一方で、憲法改定議論のなか、自衛隊の軍隊化も浮上。軍事を含む隊の在り方も問われている。岡山県は全国に先駆けて国際貢献条例を制定、県内にはAMDAをはじめ国際舞台で活動するNGOが複数、拠点を置く。平和貢献マインドが高い地域だ。そんな岡山の地から、国際貢献の今を考える。(敬称略、国際貢献取材班)

次回は、5日から掲載します。